

Title	SDGsを推進するための人材育成の提案
Author(s)	若月, 温美
Citation	年次学術大会講演要旨集, 34: 260-263
Issue Date	2019-10-26
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16494
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

SDGs を推進するための人材育成の提案

○ 若月 温美 (東葉高等学校)
atsumi_s@mbh.nifty.com

はじめに

国連が 2001 年から 2015 年まで「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals = MDGs)」を掲げ、専門家の主導により途上国の課題に取り組んできた取り組みの続きとして、2015 年 9 月に持続可能な開発サミットを開催し、「我々の世界を変革する: 持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を採択した。このアジェンダは、宣言をかかげるとともに、MDGs の後継として、17 の目標と 169 のターゲットからなる SDGs を設定した。(図 1)

これを受け日本政府は、SDGs 推進のために推進本部及び推進円卓会議を設置し、実施指針を策定している。実施指針では、5 つの実施原則 (①普遍性、②包摂性、③参画型、④統合性、⑤透明性と説明責任) の基で、8 つの優先課題と具体的施策を挙げている。これらの政府の方針を受け、日本企業も SDGs を取り入れたビジネスを展開している。文部科学省では、日本ユネスコ国内委員会に「持続可能な開発目標(SDGs)推進特別分科会」を設け、取り組みを行っている。学校教育をはじめ、家庭、職場、地域等のあらゆる場における SDGs に関する学習を奨励していくことが重要であるとしている。

あらゆる場で SDGs の取り組みが推進されているが、そのための人材育成を学校教育でいかに行うか、持続可能な社会のためには大きな課題である。SDGs に関する教育関係の提言を検証するとともにこれまでの授業での取り組みを事例に、SDGs のための人材育成について提案を行う。

(図 1)



1. 教育における SDGs への取り組み

教育は SDGs において目標 4 に位置付けられており、「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」とする教育に特化したもので、10 のターゲットから成っている。このうち、ターゲット 4.7 では、ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) も位置付けられており「2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする」といわれている。教育については、「教育が全ての SDGs の基礎」であり、「全ての SDGs が教育に期待」している、とも言われている。特に ESD は持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17 全ての目標達成に貢献するものであるため、これまでの ESD をより一層推進することは SDGs の達成にもつながるといえる。

2. 学校教育における ESD の位置付け

2016 年 12 月に発表された中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」には「、持続可能な開発のための教育 (ESD) は次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念である」と位置付けられている。答申に基づき策定され、2017 年 3 月に公示された幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領及び 2018 年 3 月に公示された高等学校学習指導要領においては、全体の内容に係る前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科においても関連する内容が盛り込まれている。高等学校学習指導要領 (2018 年 3 月公示) でも同様に位置づけられている。また、SDGs をテーマとした学習は、生徒が様々な問題について思考し、知識や情報を基に解決策を考えたり、議論したり、表現したりする主体的・対話的で深い学びの機会となり得る。

日本学術会議は、社会の中での学術のありかたについて考え、社会のための学術の推進に取り組み、多数の「提言」を発表している。それらは国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」とも密接に関わっており、この提言では、目標 4 に対して児童・生徒にとってより効果的な家庭科教育の実現を目指し、家庭科教育の現状と問題点を挙げ、小・中・高等学校における家庭科について提案を行っている。

小中学校学習指導要領 抜粋(平成 29 年 3 月公示)

【前文】

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓 ひらき、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てられた教育課程である。

【第1章 総則】

第1 小学校(中学校)教育の基本と教育課程の役割

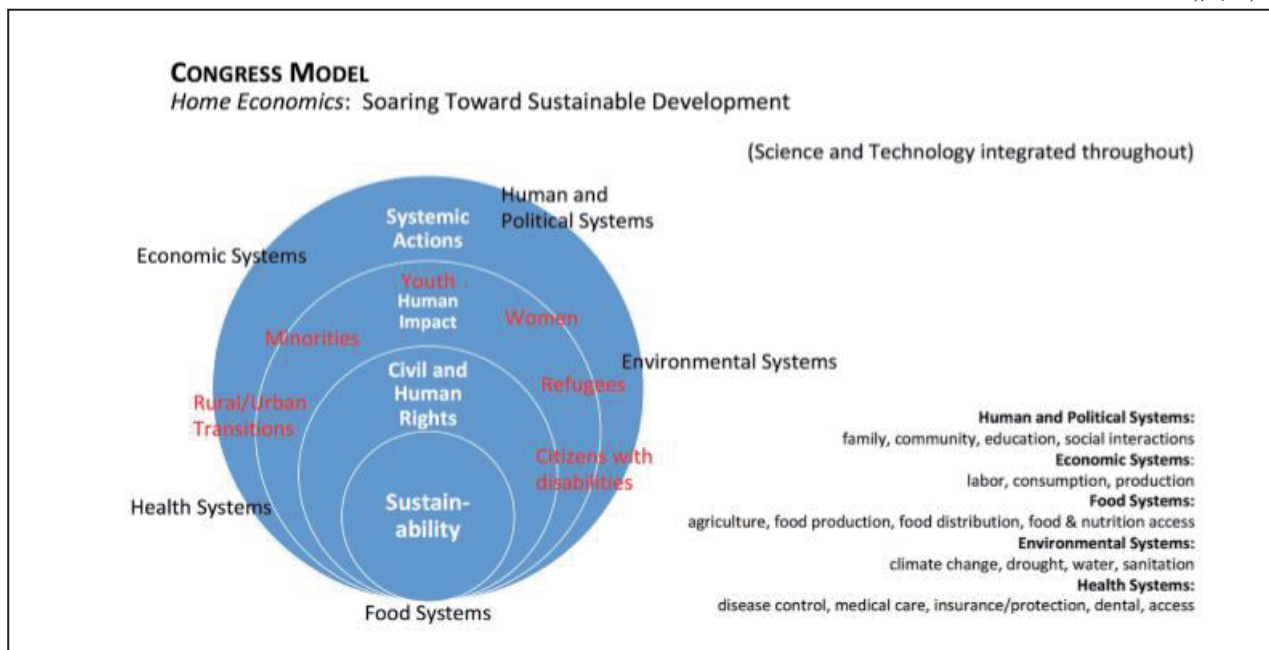
3 2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動……の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。

3. 国際家政学会による SDGs に関する家政学の視座

国際家政学会(International Federation for Home Economics =IFHE)は家政学に焦点を当てた世界で唯一の組織で、国際非政府組織 (INGO) であり、国連 (ECOSOC、FAO、ユネスコ) との協議の地位を持っている。家庭科教育の学問的基盤である家政学分野においては、国際家政学会 (IFHE) は SDGs について、IFHE 国連諮問委員会(Council Committee United Nations) が、17 の SDGs の中で、ま

ずは 5 つの目標 (1.貧困をなくそう、3.すべての人に健康と福祉を、5.ジェンダー平等を実現しよう、6.安全な水とトイレを世界中に、12.つくる責任つかう責任) について家政学の視座から意見表明書 (英文) を作成し、2016 年に韓国で開催された世界大会において草案として発表された。2020 年に「IFHE 世界会議 2020」は「家政学: 持続可能な開発に向けて (Home Economics: Soaring Toward Sustainable Development)」をテーマとしてアメリカで開催が予定されている。発表は議会のテーマに対する重要なメリットと関連性、すなわち、5 つの目標と関連の深いコングレスモデルとマトリックス (図 2) に関連していることが求められている。

(図 2)



4. 高等学校家庭科における授業の取り組み

SDGs 推進のために小学校、中学校、高等学校の学習指導要領全体で重視されていること、また日本学術会議では「家庭科教育の充実」が提言されている。さらに国際的には家庭科教育の学問的基盤である家政学において SDGs の中のまずは 5 つの目標についての意見書を草案として発表した。これらのことから SDGs の推進のためには家庭科教育の充実が重要であるといえよう。

家庭科教育について学習指導要領で具体的に見てみると、小中学校では「C 消費生活・環境」の項目で「課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え、工夫する活動」を行うこととしている。高等学校においては、家庭科教育は「少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進、成年年齢の引下げ等を踏まえて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解と技能を身に付け、課題を解決する力を養い、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことにより、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する」ことをうたい、より具体的に SDGs の 17 の目標に沿った内容となっていることがわかる。

千葉県で実際に取り組みされている高等学校家庭科の授業から、SDGs に沿った内容の授業例を挙げてみる。

授業名	目的と内容
私の中の固定観念	平等意識について自己分析し、これからの共生社会について考える
高齢者クイズ	クイズを通し、高齢者の生活に関する知識を習得し、共に生きる社会について考える。
衣生活に ESD の視点を	着なくなった衣服はどうなるのか、どうすればよいか、自分にできることを考え実行できるようにする。
高校生のまちづくり ～車いすで校内外探検～	車いすの体験を通して問題点を見つけ、改善に向けて行動する力をはぐくむ。さらにスタンダードな暮らしとは何かを考え、だれもが保障される社会を作っていく力を育てる。
バナナから買い物について 考えよう(フェアトレード)	身近な生活と世界とのつながりを知り、自分自身の消費行動について見直すことができる。さらに、授業で学んだことを実生活に生かしていくために、生活の中の問題点を発見し解決していく

また授業で学んだことを実生活に生かしていくために、生活の中の問題点を発見し解決していく「ホームプロジェクト」に取り組み、生徒が主体的に問題解決に取り組むことを重視しており、千葉県では独自のコンクールを実施しており次のような作品が入賞している。

テーマ例
私たちが考える快適さは高齢者にとって快適か？！
弱視の弟に色のある世界を～手作り絵本の製作を通して～
我が家の千産千消お弁当～秋の味覚の栄養弁当を通して～

このような授業実践例から、家庭科教育を通して SDG s を推進するための学習に取り組むことができ、家庭科教育が SDG 推進のための人材育成に貢献することができる。

5、家庭科教育の充実のために

日本学術会議は家庭科教育の現状と問題点の解決のために(1) 小・中学校教育における家庭科教育の位置付けを明確にする (2) 小・中・高等学校における家庭科教育の授業内容を明確にする (3) 高等学校家庭科には重要な柱である実習・実験形態の授業が不可欠である 以上3つの提言を行っている。これら3つの提言の解決策として共通することは「時間数の確保」である。内容が多岐にわたり、実習・実験を重視する家庭科教育の充実のためには、時間数の確保が急務である。

参考文献

文部科学省 日本ユネスコ国内委員会「ユネスコスクールで目指す SDGs 持続可能な開発のための教育」(2018年)

文部科学省 「小学校学習指導要領(平成29年告示)」(2017年)

文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示)」(2017年)

文部科学省 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」(2018年)

井元 りえ 「国連の持続可能な開発目標(SDGs)をテーマにした授業ー総合的な学習の時間における家庭科教諭と栄養教諭による協同ー」(女子栄養大学 教職課程センター年報 Vol.2) (2017年)

日本学術会議 健康・生活科学委員会「家政学分科会生きる力の更なる充実を目指した家庭科教育への提案ーより効果的な家庭科教育の実現に向けてー」(2018年)

千葉県高等学校教育研究会家庭部会家庭科教育推進委員会 「あんころ」教育図書(2014年)

引用ホームページ

IFHE 国際会議 2020 <https://www.ifhe.org/ifhe/meetings/ifhe-world-congress-2020/>